

能勢町から最寄りにある二次救急医療機関「市立川西病院」の存続について、能勢町は、川西市と話し合いを持つ事を求める請願書（2025年）

主旨

私たちは、能勢町住民の生命と健康を守る上で、本町から10km圏内にあり、住民も多く利用している「市立川西病院」が移転し、猪名川流域北部地帯に二次救急医療機関の空白地帯を作る事に、大きな懸念を感じています。能勢町が川西市と話し合いを持つ事を請願します。

反対討論

長尾 義和

この請願書の趣旨から考えると、「市立川西病院」が仮に川西市の中心部に移転したとしても、二次救急医療機関の空白地帯を作るとは言えない。

また、より高度な二次救急医療については、ドクターヘリの活用により搬送されることになり、救急医療は充実してきた。

豊能圏域医療の在り方、このことは能勢町だけでなく豊能町や猪名川町を含めたなかでの議論が重要である。1市3町の協議会もあり、議論も十分でできる。

このようなかで、今回、請願書が提出されたのは能勢町だけであり、周辺自治体とも連携を図るべきであったと考える。

反対討論

大西 則宏

請願権は、日本国憲法第16条で保障された国民の基本的権利であり、請願の採択に当たっては「願意が妥当であるか」「実現の可能性があるか」「当該自治体及び議会の権限に属する事項であるか」が、その判断基準とされている。

本請願については、能勢町及び能勢町議会の権限に属さない事項であることから、不採択にするほかに、と考えるものである。

賛成討論

中西 顕治

本町住民の依存度が比較的高い「市立川西病院」の改革案が、どのような影響を及ぼすかの分析は早急に行政が行うべきものと考える。能勢町として「住民の健康、命を守ることをどう実現していくのか示さなければならぬ。

この請願が求めるように、川西市の計画について正確に聞き取り、分析の材料を広く住民と共有することが必要だと考える。

請願が求める「話し合い」をステップに救急、医療需要、介護需要のあるべき姿を示すことを加えて要望し、この請願に賛成する。

賛成討論

大平 喜代江

「大阪府地域医療構想（平成28年3月）」には、4市2町の豊能構想区域は、大規模病院が多く比較的医療資源に恵まれた区域であるが、4市に偏在、北部の能勢町、豊能町では区域内の在宅医療を含む医療資源や医療機関への利便性が異なり、市町間の医療需要量の幅が大きいため、地域特性を踏まえて近隣市町、構想区域外の医療機関等広域での医療資源確保や多職種連携による医療提供体制構築の必要性を示している。病院がなく隣接する他市病院への医療依存が高い本町ゆえに、川西市の構想を踏まえ、本町の医療のあり方を考えていただきたい。

「2025日本万国博覧会」の大阪誘致に対する決議について

主旨

国際博覧会は、人類が抱える地球規模の課題に対し、世界からの知恵を一同に集めることで、解決方策を提言する場であり、新しい時代を生きる知恵を広く発信することにより、世界と日本の平和的発展に大きく寄与することが期待されている。能勢町議会としても、大阪での開催の意義に賛同するものである。

反対討論

中西 顕治

万国博覧会の持つ産業や技術を教育的に広げる理念そのものに反対するものではないが、開催地を夢洲とし、夢洲で計画されているカジノを含む統合型リゾートの促進の為に利用されている点は教育的という理念から逸脱している。また、特殊な産業廃棄物を管理する機能をもった夢洲は土壌汚染の懸念があり、交通アクセスや地震等の災害への備えが脆弱である点も含め、誘致場所を確定したうえでの誘致決議に反対する。

反対討論

伊木 真由子

万博自体に反対をしているわけではないが、健康をつたう万博とカジノをセットで誘致しようとしている点で、この決議案に反対する。

賛成討論

岡本 ひとし

さまざまな問題や課題が山積しているが、大阪の地盤沈下、活力を取り戻すためにも万国博覧会の誘致に関する決議に賛成する。しかし、IRなどの問題は法整備も必要です。大阪が元気になるためにも国際博覧会の誘致は必要と考える。